

平成30年度 第1回 広島県立大崎海星高等学校活性化地域協議会 議事要旨

【日 時】 平成30年7月25日(水) 14:30~16:00

【場 所】 広島県立大崎海星高等学校

【出席者】(敬称略, 50音順)

伊場田 真彦, 梶村 隆, 越田 賢一, 小林 弘晁, 小林 弘志, 高田 幸典, 取釜 宏行,
中原 健次, 平田 修(委員9名)
國藤 生美, 槌井 佑太(県教育委員会事務局2名)

【議事概要】

1 開 会

○校長挨拶 ○委員の紹介 ○会長挨拶

2 説 明

「高校魅力化」の取組について

- ▶ 今年度の学校見学ツアーは参加希望者が多い。また県外の中学校の修学旅行で行っている和太鼓体験の評価も高い。民泊家庭のところへお礼の手紙が来るが、中には海星高校に行きたい、というものもある。高校生や地域との触れ合いに魅力を感じている。
- ▶ 生徒がいろいろな場で、生き生きと活動している。保護者の知らないところで子どもが活躍していて、他の人からほめてもらうことがある。
 - ・上級生の姿を見て1年生も頑張る姿を見せてくれるようになった。
- ▶ SCH西日本の開催について
 - ・SCHは高校生の地域活動の推進を目的として2月に山形で開催した全国大会であるが、この度大崎海星高校で8月に開催することになった。本校のみりょくゆうびん局が司会やファシリテーターといった役割を担う。



3 協 議

(1) 活性化策について

- ▶ 旅する權伝馬も広島の方では同世代の子どもからも評価されている。旅する權伝馬はぜひ継続してもらいたい。終えた時の充実感を味あわせたい。
- ▶ 中学生から見て、あこがれの先輩が海星高校にいる、ということが必要ではないか。
 - ・中学の卒業生が海星高校で成長した姿を見せることが必要である。部活動での交流や、懇談会などにおける海星高校の説明会などの機会を設けている。今後も中高の垣根を低くしていきたい。
 - ・みりょくゆうびん局の生徒のプレゼンを聞くことがあるが、成長がすごいと感じる。社会に出てからの力になると考える。



4 まとめ

5 閉 会

○会長挨拶

※本協議会は、公開としております。